研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141		20-416	独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 佐久間寛之 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生

題名（原題／訳）

Impact of the COVID-19 Pandemic on Patients With Alcohol Use Disorder and Associated Risk Factors for Relapse

COVID-19 パンデミックがアルコール使用障害に与えた影響および関連する危険因子について

執筆者

Yazdi K, Fuchs-Leitner I, Rosenleitner J, Gerstgrasser NW.

掲載誌

Front Psychiatry. 2020 Dec 16;11:620612. doi: 10.3389/fpsyt.2020.620612.

キーワード	PMID
COVID-19, PTSD, アルコール使用障害, 孤立, 再発	33391060

要　旨

目的：現在進行中の COVID-19 パンデミックは、物質使用障害のようなハイリスクグループに与える影響は甚大なものになると予想され、世界中の多くの専門家によって早くから懸念が提起されている。COVID-19 危機に伴う心理社会的な苦痛、経済的な不安、生理学的問題は、この群の患者にとって特に困難なものとなる可能性がある。

方法：本研究では、パンデミックの初期段階において、アルコール使用障害（AUD）患者の臨床サンプルからデータを収集した。COVID-19 に関連する様々な要因（生理学的、心理社会的、経済的、その他）が患者の生活に与える影響を評価した。アルコール消費量、渇望、および潜在的な心的外傷後ストレス障害（PTSD）症状を異なる尺度で評価し、それらの関連性を分析した。さらに、断酒継続群（N＝37）、再発群（N＝41）、飲酒行動に変化なしの群（サブグループ、N＝49）の群間で、これらの尺度の違いを調べた。社会人口統計学的因子および COVID-19 因子が（断酒と比較して）再発に及ぼす影響を、二値ロジスティック回帰分析を用いて評価した。

結果：その結果、AUD のアルコール消費量、渇望、PTSD 症状の間には、それぞれ期待された正の関連性が確認された。さらに群ごとの比較では、断酒している患者は 3 つの尺度すべてにおいて有意に低いレベルであった。PTSD スコアは全般的に低かったが、8%の参加者が PTSD のリスクを抱えていることが判明した。二値ロジスティック回帰分析の結果、心理社会的 COVID-19 因子（孤立、不安、抑うつなど）の存在と独居が再発の 2 大危険因子であることが示された。

結論：実際の患者のデータに基づいて得られた知見は、パンデミックが AUD 患者に及ぼすと予想される負の影響を支持するものである。再発に関する結果では、心理社会的な COVID-19 要因と社会的孤立が AUD 患者にとって特にハイリスクであることが強調されており、経済的および生理学的な健康面は再発にあまり影響しないようであった。今回の結果は、パンデミックの初期段階を反映したものであり、長期的な展開を注視する必要がある。